

未だ津波被害そのままの福島県浪江町　2014 年 7 月

ともしび
共生委員会ニュース

4 号　2014 年 12 月 1 日版

共生・校外学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。原爆投下の地、長崎を訪れる 2 年生の修学旅行だけでなく、高等部の 3 年間の生活を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の問題を考えていきましょう。この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声も他の多くの皆さんへ届けたいと思っています。その経験を共有し、一緒に考えるきっかけとして下さい。

Peter Rabbit, Aogaku, and the National Trust

ナショナル・トラストを知っていますか？

Do you know Peter Rabbit? Of course you do! He is one of England's most famous characters. His creator was Beatrix Potter, who wrote her first Peter Rabbit story when she was 27. She wrote it when she was in the Lake District, which is probably the most beautiful area of England. It is filled with green hills, lakes, rivers and flowers. However, the Lake District has faced some dangers. For example, some people want to build **pylons**, and other people want to **dump nuclear waste** there. Also, many tourists visit the Lake District every year, and this causes problems such as **pollution**.

Vocabulary
pylons 鉄塔
dump nuclear waste 核廃棄物を捨てる
pollution 汚染
protect 保護する
rely on 頼る
donations 寄付
restore 復元する
play a part in 役割を担う
vending machine 自動販売機

However in England, there is a charity group called the National Trust, which works to **protect** the Lake District and other areas of historical importance and natural beauty. The National Trust **relies on donations** and volunteers to help protect these areas. There is also a National Trust in Japan. This organization works to protect and **restore** important sites in Japan such as Shirakawa village in Gifu.





Japan's National Trust, too, relies on help from government, companies, and the general public. Aoyama Gakuin has decided to **play a part in** helping support the National Trust of Japan. Have you seen the **vending machine** in the cafeteria? It says "National Trust" on the side. Every time you buy a drink from this machine, some of the money will go to the National Trust. It's a lovely idea, isn't it? Every time you drink from this machine, you are helping to protect Japan's historically important and naturally beautiful places. It's an easy way to do something nice!

日韓高校生交流会

11 月 7 日（金）の午後、韓国から訪れた 45 人の高校生と、お迎えする 45 人の高等部生をあわせた総勢 90 人の高校生交流会が行われました。交流会では 3 対 3 のグループをつくり、青山キャンパスのオリエンテーリングや、サイエンスプロジェクトなどに挑戦しました。また、茶道部やダンス部のみなさんにもご協力いただき、豊かな交流の時間を持ちました。





参加者の感想　　ＨＲ309　S.A.　さん

私が日韓交流プログラムに参加したのは、韓国の学生と友達になってみたかったからです。今まで英語圏の学生との交流は参加したことがありましたが、韓国の学生との交流プログラムは初めてで、すべてが新鮮に感じました。

はじめ、韓国の学生が到着する前までは私たちのほとんどが韓国語を話せないこともあり、皆とても緊張していました。そんな状況の中、プログラムが始まりました。最初に韓国、日本の生徒それぞれ三人ほどが同じグループとなって学校案内をしました。三十分という短い時間の中での学校案内でしたが、自然と打ち解けるきっかけとなりました。その後、サイエンスプロジェクトというグループワークをしたり、茶道部による茶道体験、ダンス部による発表を観てもらいました。

こうしてあっという間に終わりの時間が近づき、帰り間近に同じグループの韓国の学生からプレゼントをもらい、その中には手紙も同封されていました。たくさん書かれている中で最も印象的だったのは、「初めての日本人の友達ができて嬉しかった」という一文でした。相手も自分と同じように思っていてくれたことに何よりも感激し、国を越えて心の距離が縮まったように感じました。

そんな充実した交流プログラムを終えて思ったことは、伝えようとする気持ちがあれば、どんな国の人たちとも仲良くできるということです。そうすれば、相手も理解しようとしてくれて一緒に楽しむことができる。このことをより一層感じました。私はこのプログラムに参加して本当によかったと思っています。ぜひこれからも一人でも多くの生徒がこのような素晴らしい体験をしてもらえたらいいなと思います。



原発被災地の今

武藤　拓(理科　物理・地学)

夏休み中に東京私学教員の研修会に参加し、福島県南相馬市と浪江町を訪れた。そこで感じられたことは、東日本大震災の被災地の中でも原発事故の影響を受けている地域は取り残され、先が見えないということ。放射能と共に暮らしていかなくてはいけない中で、それぞれがいかに難しい決断をしていかなければならないのかということ。そうしている間に地域に線が引かれ、またお金によって地域の人々が分断されているということだった。



『帰還困難区域について』内閣府原子力被災者生活支援チーム　より

福島県内の放射線強度は、東京と同程度(約 0.1μSv/h、年間 1mSv 未満)の地域もあれば、年間 150mSv を超え、いつ住めるようになるのかわからない地域もある。福島第一原発の北側にある浪江町全域と南相馬市の約１／３には、避難指示が出されており、現在住むことができない。

だだっ広い原っぱのように見えるのは津波にやられた住宅地や畑、でもそれは瓦礫が取り除かれた地域。瓦礫が山になっているのは、今、作業がなされているところ。草の間に車やら船やら瓦礫が転がってそのまま手つかずの状態のところも多く残されており、まるで震災が起きた 2011 年のようだ。他の被災地の復興から時間が止まって取り残されたままだ。工事車両が時折行き交い、作業が徐々に進められつつあることは確かだが、被災地では人手不足、資材不足だそうだ。東京オリンピックへ向けての建設ラッシュは資材価格を押し上げ、人手を奪い、被災地の復興を遅らせているという。


がれきが集められている津波被災地（南相馬小高区）

今回、様々な人から話を聞くことができた。内部被ばくの検査を行っている医師は、流通しているものなら地元産を食べている人でも体内に放射性セシウムなどは検出されない、子どもたちも被ばくの心配で元気をなくさず、自信を持って欲しいと言う。線量の低い地域の仮設住宅へ避難している自治会長さんは、頻発する汚染水漏れ、瓦礫処理による放射能飛散などの状況から、「除染が完了して避難指示が解除されても原発がコントロールされていない現状では帰れない」と言う。研修会に参加した教員からの「我々にできることは何か」との質問に対しての答えは「来てもらうこと、声を掛けてもらうこと」だった。


まだ津波被害がそのままの地域（浪江町）

原発まで数ｋｍ地点で原発施設が見える浪江町の津波被害地は草原と道路以外何もない。放射線強度は東京と大差ないが、詳しい状況のわからない壊れた原発を目前にし、「あなたなら、避難指示が解除されたらここへ帰ってきますか」と問われた時、出てくる言葉はなかった。「原発震災を語り継ぐ会」代表を務める女性は原発から 25 ㎞の南相馬で幼稚園児と暮らし、「あなたは自分の子どもを殺すのか」と言われたそうだが、「東京の地下鉄で震災が来たらどこへ逃げたらいいかわからない。でも南相馬ならわかる」と言う。

私が訪問したところで最も高い線量は 1μSv/h 強だった。これは上空の飛行機内より低い。放射線を避けたい人は線量の低い避難区域外の地域（南相馬なら北の方）でいいので、ぜひそこにいる人達の声を聞きに行ってみてほしい。

BLUE PECO

生徒の有志団体 BLUE PECO は、学校の公式な組織ではありませんが、学年を超えて平和・共生に関わる活動を有志で続けています。



こんにちは、BLUE PECOです!!

名前は知っているけれど、どんな団体なのかよく分からないという人のために、今回はBLUE PECOの紹介をします!

BLUE PECOは、2007年に3年生だった5名の先輩方がたちあげられた、校内有志団体で、今年で8年目になります。名前の由来は、青山の青(BLUE)と、PEACEとECOという意味の造語、PECOです。世界の貧困問題や環境問題に目を向けた活動をしています。メンバーは1年生から3年生で30名ほどいます。主な活動は、ペットボトルキャップ回収、海岸清掃や美化ボランティア、文化祭での販売です。

最寄室前で常にペットボトルキャップの回収をしています。夏休みには海岸清掃ボランティアや美化ボランティアとして音楽祭のSUMMER SONICに参加しました。

そして、BLUE PECOのメインの活動といえばやはり文化祭です。コーヒーや手作りシュシュを販売し、売上はすべてNPOに寄付し、主にフェアトレードの資金となっています。文化祭で販売されていたコーヒーは、実にフェアトレードという発展国と先進国の間の経済格差が少なくなるような貿易によって東ティモールから輸入されたものだったのです。

今年は募金も含め35,611円と1セントの寄付を立せていただきましたことにありがとうございました。

新メンバーは常に募集中なので、興味のある方はお気軽にHR204のYまで声をかけ下さい!

BLUE PECO

【お知らせ】

◎平和・共生に関する活動に興味がある人は武藤、相良、藤本、中久木、キャロル、ベリーまで。

◎次回共生委員会ニュースに掲載する文章を募集中です。（武藤まで）

◎カフェテリアの掲示板に平和・共生に関する募集などの掲示をはじめました。

学校へ案内が来たものを特に取捨選択せず、掲示しています。

特に学校から推薦するというものではありませんので、イベントなどに参加する場合、保護者の方に相談し、各自の責任で申し込みをして下さい。